

寶林精舎

《題字・森神紫陽》

平成22年初盆のお家

喪主	続柄	故人名	命日	享年	地区名
小椋喜見子	母	市原トミエ	平成21年 8月29日	86歳	東京 大田区
石井千代子	母	安藤ケサ子	9月25日	91歳	永代供養
戸高 直人	母	好 江	9月26日	68歳	仁田原 内水
柳井 滋敏	母	富 美 江	10月23日	89歳	下直見 間
川野 恵美	母	クニ子	10月25日	70歳	仁田原 萱垣
松田 哲郎	父	昭 治	10月27日	83歳	赤木 神内
高橋カズエ	夫	仁	10月27日	90歳	赤木 吹原
阿部 茂美	母	ヤエ子	11月16日	103歳	赤木 市屋敷
佐藤スエカ	夫	海	12月14日	78歳	佐伯 鶴岡町
山口 正春	母	ハルエ	平成22年 1月28日	94歳	佐伯 古市区
小野 勇一	父	照 美	2月9日	86歳	仁田原 細川内
井上 基	父	道 則	2月12日	93歳	新 潟 上越市
安藤 俊二	父	宗 奉	3月11日	85歳	赤木 堂師
染矢 博正	弟	日 出 男	3月14日	69歳	仁田原 柚の原
鳴海ヨシ子	夫	周 一	5月10日	84歳	蒲江 尾浦
御手洗 哲	父	佐 一	5月13日	88歳	仁田原 椀ヶ原
戸高由美子	夫	誠 一	5月21日	60歳	仁田原 内水
立箱 貞夫	母	貴 美 恵	5月24日	72歳	赤木 神内
平井 健吾	父	修 身	5月24日	70歳	仁田原 萱垣

※下記の方は四十九日がお盆を過ぎますので、初盆は来年に行います。

喪主	続柄	故人名	命日	享年	地区名
山本スミ子	夫	浅 雄	7月5日	82歳	蒲江 尾浦

※7月25日現在

第52号

正定寺花園会広報

平成22年夏発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 直川地区：253戸 直川地区外：147戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原 寿山

☆平成22年お盆参りの日程☆

昨年とは日程や地区順が違います。お確かめください。

月 日	曜	日 柄		開始時間～終了時間	地 区
8月3日	(火)			午前9時～午後6時	細川内⇒道の内⇒吹原⇒ 中津留（赤木）⇒野の内
8月4日	(水)			午前9時～午後6時	栗林⇒向船場⇒水口⇒間⇒ 本匠⇒弥生
8月5日	(木)	塚 日	煤掃き盆	午前9時～午後6時	内水⇒杭の内⇒椈ヶ原⇒下城
8月6日	(金)			午前9時～午後6時	柚の原⇒黒岩⇒横川⇒羽木⇒ 蜷の崎⇒川又
8月7日	(土)	立秋・友引	池替盆	午前9時～午後7時	旧市内A⇒宇佐⇒別府市
8月8日	(日)			午前9時～午後6時	大分市⇒臼杵
8月9日	(月)	井戸・墓掃除		午前9時～午後6時	竹の下⇒園⇒下中津留（上直見） ⇒間庭⇒江河内
8月10日	(火)			午前9時～午後6時	堂師⇒市屋敷⇒神の原
8月11日	(水)	友 引	花取り盆	午前9時～午後6時	大久保⇒萱垣⇒大鶴⇒学校下 ⇒神内
8月12日	(木)			午前9時～午後7時	長野⇒立箱⇒新中⇒久留須
8月13日	(金)	精霊迎え盆	草刈り盆	午前9時～午後7時	天津留⇒用來⇒寺の下⇒ 岸の上⇒上の地
				午前9時～午後6時	日向市⇒延岡市⇒三重⇒宇目町
8月14日	(土)			午前9時～午後7時	畑の浦⇒尾浦⇒鶴見⇒木立 ⇒旧市内B地区
				午前9時～午後6時	旧市内C地区
8月15日	(日)	盂蘭盆・精霊流し		午前9時～午後6時	旧市内C地区
				午前10時～	直川内初盆各家（前ページ参照）
8月16日	(月)	精霊送り盆		午前10時～	位牌堂諷経各家（次ページ参照）
8月17日	(火)	盆明け			

お盆期間中のお知らせ

- ① 本年は和尚・新命和尚の二人がそれぞれお参りを致します。
始まりと終わりの時間はだいたいの目安にして下さい。
- ② 昼休み（昼食時）にお参りする場合がありますのでご承知ください。
- ③ 葬儀や天候の都合で日程を延ばす場合は、午前9時までに地区世話人様にご連絡致します。
- ④ 直川内で雨天（大雨）の場合、足袋・衣が濡れていて、皆さまにご迷惑をお掛けします。
座敷に上がらず、草鞋・合羽でお参りを致します。（軒先でのお勤めを致します。）
- ⑤ 台風などの延期に伴い14日の地区が16日以降に成ることが有ります。
- ⑥ 留守の家は外からお経を上げさせて戴きます。
- ⑦ 1日～16日の間は、盆中のため本堂を会場にしての葬儀が出来ませんので葬儀の場合は「自宅」もしくは「公民館」や「斎場」で行うようにご協力ください。
又、伴僧（役僧）の手配が難しい場合がありますのでご了承ください。

第7回正定寺杯グランドゴルフ大会



参加者の集合スナップ

平成22年3月27日（土）午前10時30分開会
 で「第7回正定寺杯グランドゴルフ大会」が特別養護老人ホーム直川苑のグランドで行われました。
 桜満開の下で昨年度優勝者の三浦伸一さんが選手宣誓をして38名の参加者が元気にプレーしました。
 優勝者は「岩切ケサ子さん（向船場）」・準優勝は「渡辺昭子さん（久留須）」・3位は「古元聖人さん（竹の下）」がそれぞれ獲得いたしました。



《ホールインワン》

向船場	岩切ケサ子(3回)
竹の下	古元 聖人(3回)
鶴見	山田 牧江(3回)
久留須	渡辺 昭子(3回)
中道	安藤 慶喜(2回)
椀杭	戸高 茂子(2回)
大鶴	三浦 伸一(2回)
鶴見	山田 佐一(2回)
椀杭	小野 房代(2回)
江河内	河野 林(1回)
向船場	岩切 初(1回)
神の原	甲斐 水江(1回)
細川内	小田木布子(1回)
久留須	小野シマ子(1回)
久留須	大司 八郎(1回)
竹の下	竹下 好子(1回)
向船場	竹尾トモ子(1回)
久留須	矢野 侃可(1回)



左から鴨尾エイ子さん・小田木布子さん・竹下好子さん・岩切 初さん・河野 林さん



左から三浦伸一さん・河野豊美さん・竹尾トモ子さん・岩切ケサ子さん・山田牧江さん



左から安藤慶喜さん・大畑記美代さん・五十川キミエさん・矢野 薫さん・小野幾夫さん



左から小野浩伸さん・小野房代さん・星野延子さん・大司八郎さん・矢野侃可さん



左から御手洗好子さん・川野久美子さん・山田佐一さん・甲斐水江さん・平井文江さん・戸高茂子さん



左から渡辺昭子さん・古元聖人さん・岡田千壽子さん・飛田禮子さん・鴨尾利夫さん



左から簀戸功吉さん・小野波子さん・小野シマ子さん・尾形キミエさん・久保田キヨエさん

お盆のあれこれ

8月13日

むかえぼん
迎え盆
くさきりぼん
草切り盆

8月13日を「草切り盆・迎え盆」と呼びます。
牛馬を飼っていた頃、日が明けぬ朝早くから野山に出かけ、牛馬のエサ(草)を刈りに行った経験は有りませんか。
盆の間は、大切なご先祖さまをお迎えするので牛馬の世話をしなくて済むようにと、たくさんのエサを蓄えるこの日を「草切り盆」と言います。

むかえび
迎え火

早めにお墓にお参りして、夕刻になると「迎え火」を灯します。この「迎え火」を門火・庭燎とも言います。
日没に自宅の門口で目印の松明を焚きご先祖を迎えます。松明の代わりに縁側に提灯を灯すところもあります。
古くは、提灯に火を灯してお墓までご先祖さまをお迎えに行っていました。間違つて14日にお迎えに行っているお家がありますが、ご先祖さまのお帰りは13日ですよ。

あらいおけ
洗い桶

13日の夕刻には、縁側の戸を開けて、帰ってこられたご先祖さまの足を洗うための「洗い桶」を用意します。
供養されない迷った霊は「お化け」といい、足が有りませんが、ご先祖さまは皆さまから供養されているので足が有ります。翌朝、「洗い桶の水が濁っている」と言うのは、ご先祖さまがお帰りになった証かも知れません。

ごえん
ご縁

さて、ご先祖さまが縁側から帰って来るには理由があります。みなさんの家で、生涯を過ごす大切な方の出入り口は全て縁側を正式としていたからです。
みなさんも嫁いでこられた時、縁側から入ってきませんでしたか。
お嫁さんに出すときも、お嫁さんを迎えるときも縁側を出入り口としていました。
「うちの娘もご縁があって〇〇家に嫁ぐようになりました」とは、ここから出た言葉なのです。
生涯をその家で過ごし、人生の臨終を迎えてお亡くなりになった時も、縁側から出棺して浄土へ旅立ちます。

きゅうりのうま
胡瓜の馬

年老いて足腰が不自由で、帰って来るのが遅いご先祖さまもいるかも知れません。そこで、胡瓜に竹の足をつけて馬に見立て、お墓にお供えます。これを「胡瓜の馬」と言います。
「馬に乗って早く帰って来て」と願う気持ちからです。
又、どんなに遅い方でも13日中には戻ってこれると言われるので、縁側の戸を開めるのは13日の夜中12時過ぎ(14日)なのです。

こうじき
香食

13日の夜中、全員のご先祖さまが戻られた頃、仏壇にお明かりを灯し線香を立てます。
線香の香りがご先祖さまの最初のおもてなしです。中国では「香食」と呼んでいます。香りが死者の食べものなのです。線香立ての灰もきれいにしておきましょう。
灯したロウソクが揺らぐと「ホラ！帰って来られた」と昔の人は言っていました。

8月1日

みちつくりぼん
路作り盆

8月1日を「盆入り」と呼びます。文字通りお盆の月に入った事を示します。又、お墓や墓道の草切りを始める日なので、「路作り盆」とも言います。
日本でのお盆は、推古天皇十四年(606年)の7月15日(中元)に行なったのが最初とされています。現在の日本では、7月盆と月遅れ盆(8月盆)とあり、東日本は7月盆が多く、西日本では8月盆が多く見られます。九州でも宮崎や熊本・沖縄の一部を除いては、8月にお盆の行事を行っています。旧暦の7月15日に行なう地方もあります。

8月5日

すすきはきぼん
煤掃き盆

8月5日を「すすきはき盆」と呼び、お盆の準備のために、家のスス払いや掃除をします。遠くで働く家族や親戚がお盆には戻ってきます。この日からそろそろお嫁さんは忙しくなります。

8月7日

いけかえぼん
池替え盆

8月7日を「七夕」・「池替え盆」と呼びます。
お盆が近づくこの日は、身の回りをきれいにする日とされています。昔から体を清るために沐浴(水浴び)をしたり、髪を洗ったり、牛馬に水浴びをさせたりしました。
水浴びを「ねむり流し・ねぶた流し」などと呼ぶところもあります。青森の「ねぶた祭り」もご先祖を迎える準備として、身の回りの「邪気(睡魔)」を追い払い清める行事です。
水に流すことで願い事を叶える風習は、7月7日の「たなばた」の行事からもうかがえます。
又、「池替え」とは井戸さらいの事で、井戸の掃除や墓の掃除から仏壇の位牌や仏具まで、きれいに洗い流す日とされています。中国では、墓参りを「掃苔」と呼びます。文字通り墓に付いた苔を取り掃く事です。新盆を迎える家は、この日から飾り付けを行います。新盆供養の盆提灯もこの日に間に合うように送ります。

8月11日

はなとりぼん
花取り盆

8月11日を「花取り盆」と呼びます。
お盆のお仏壇やお墓にお供えする花を準備する日の事です。
花は「檜・櫛・シキミ」の事です。木偏に佛と書いて「シキミ」・木偏に神と書いて「サカキ」と読みます。仏さまにお供えする花は、「シキミ」・神さまには「サカキ」です。「シキミ」を「シキビ」と訛つて私たちは呼んでいます。もともと、「シキミの木」は毒性が強く、土葬した遺体を野犬やおおかみ等の野獣から守るために、用いられました。お墓にシキミを供えるのはこうした理由からです。ヒノキなどの新芽を食べる鹿もシキミの新芽は口にしません。毒があることを知っているからです。この日に準備した花(シキミ)を水に浸し、花が十分に水を吸い上げた頃に、仏壇やお墓にお供えすると長持ちするとされています。

知ってましたか?



水の華

なすび等の生野菜・米・小豆などを混ぜた物を「水の華」又は「水の子」と言いお墓に撒いてあげます。餓鬼道に落ちた亡者は、十分な食べ物を与えられず、体は痩せ細り、喉は極端に細くなっていると言われます。喉が細いので「水の華」は、食べやすいように細かく刻んでいます。又、水の華や線香は残っても決して持ち帰りません。ご先祖さまへの供物は、亡き父・亡き母への供物です。持ち帰ると、「もったいない」と言う欲心があるように思われるからです。親への恩返しに損得はありません。昔の人は、「残った「水の華」に餓鬼が付いて来るから」とそれとなく戒めていました。

留守墓参り

お盆の間、誰からも供養されない餓鬼がご先祖さまがいない留守の墓に寄りついているので、ご先祖さまの代わりに、浮かばれない霊に供養するのが「留守墓参り」です。自分だけではなく他の人も救いたいと願う心は、お盆の由来そのものの教えです。禅宗では「まず他の人を救い、その功德で自らも救われる」と言う法要が有ります。これを「施餓鬼会」と言います。「情は人の為ならず」の格言と同じです。正定寺も江戸時代は、7月1日～15日の間は施餓鬼棚を設けて供養がなされていたと記録が残っています。現在は月遅れの8月1日～15日に各家へのお参りになり、「施餓鬼会」は9月の彼岸に法要がなされています。

精霊流し

西方丸と書いた小船に供養の品々を供え15日の深夜に川や海に流す風習を「精霊流し」と言います。ご先祖さまの霊は、「送り盆」の16日夜明けに、東から昇る太陽と共に西の西方極楽浄土に無事にお帰りになると言われています。16日送り盆の夜明け、沖に昇るお日さまに間に合うようにと15日の深夜に流します。直川村では、16日の早朝(夜明け前)にお供えした団子や果物などを川へ木板に乗せて流すのが一般的です。

8月16日

送り盆

8月16日を「送り盆」と言います。15日に送る家もありますが正式には16日です。

茄子の牛

茄子に竹の足を付け牛に見立てて仏壇に飾ります。これを「茄子の牛」と言います。牛に乗って「ゆっくり戻って下さい。」と別れを惜しむ風習です。

土産の団子

浄土へお戻りになるご先祖さまの「土産の団子」は、少しでも多く持ち帰りが出来るようにと、平らに作ります。丸団子では積み重ねが難しいからです。又、多く担げるようにと「じがるい豆」と言う細長い豆もお供えします。この豆は、束ねたり又担ぎ籠の縄となるように持たせます。

送り火

16日の日没にお墓で松明を灯します。この火を「送り火」と言います。ご先祖がお帰りになる場所を示す目印の明かりです。歩くのが遅いご先祖さまも日が沈む頃には無事にお帰りになると言われています。京都の大文字焼きは「送り火」の事です。これで、3泊4日の里帰りが終わります。

8月14日・15日

盂蘭盆

8月14日と15日を盂蘭盆と言います。

「盂蘭盆経」と言うお経の中には地獄(餓鬼道)に落ちて苦しむ母を救うために、僧侶のお経と「飯・百味・五果」などの馳走を棚にそなえ、その功德を以て救われたと説かれています。

地獄での苦しみは、まるで「逆さ吊り」にされているような苦しみ(倒懸苦)と言われ、この「倒懸苦」をインドの言葉で「ウラバーナ」と言います。「盂蘭盆・うらぼん」の語源です。

私が修行道場にいた頃も、4月15日から7月15日迄の3ヶ月を雨安居と言ひ、その終わりの日(7月15日)を「僧自恣の日」と呼び、寺院では「施餓鬼会」が行われます。お盆の行事はこの仏さまの教えが基になっています。

精霊棚

お盆は特別に「精霊棚」を飾ります。「精霊棚」は、仏間の縁側に設けていました。

この棚を「施餓鬼棚」とも言います。和尚さんは「精霊棚」に向かって「お施餓鬼」のお経を唱えます。

今でも、お盆に和尚さんがお参りすることを「棚経」と言います。皆さんの中には、この「施餓鬼棚」でお迎えしていた頃を覚えている人は有りませんか。

納屋の隅にこの「施餓鬼棚」がある家はありますか。

お盆の正式な祀り方は、「施餓鬼棚(精霊棚)」を縁側に飾り付けるものでした。

生霊供

生霊供の材料とは、なすび・トウキビ・芋 瓜・洗米など火を加えずには食べられないものです。

これは、餓鬼道に落ちた者は、「食する物が全て火になる」と言われ、生米などの生の穀物を口にするると口元で火が加わりちょうど食べ頃になると言われるからです。

餓鬼はいつも口の中が燃えさかり、ノドが渇くとされています。水の力で「邪気を洗い流す・水で炎を消す・水でノドの渴きを治める」ところから、精霊棚には水が注がれた大きな器が備えられて、水が散けるようになっています。

又、この水を「アカ(闍伽)」と言います。中国の言葉で「供養」と言う意味です。お墓に水を散くのもこうした理由があるからです。

お供え

お供えは、年忌法要の時と同じように「お霊供膳」・「団子」・「菓子」・「果物」・「茶」・「湯」・「水」と共に、特別に灯笼提灯に見立てて「灯笼菓子」・「ホウズキ」、又畑で採れた「なすび・カボチャ・トウモロコシ等々」をご先祖さまに感謝を込めてお供えします。

天気にも恵まれて 大般若会に大勢の参拝者

平成22年1月20日（大寒）に恒例の大般若会が行われました。
天気にも恵まれ朝早くから花園会世話人さんや女性部・役員さんから法
要の準備加勢を頂き二百名を超える参拝者が「般若の風」を頂きに大般
若經六百巻の前で手を合わせました。



大般若会参拝者



婦人部



般若（智慧）の風

大般若札の説明

「大般若」とは孫悟空をお伴に連れ、遙か天竺（インド）に經典を求めて旅をする三蔵法師。あの有名な西遊記は三蔵法師の徳を讃えた物語です。

三蔵法師は、正しくは（玄奘三蔵法師）と云う中国の實在の人物です。三蔵法師により伝えられた沢山の經典の中に、あの有名な《般若心經》の基になった「大般若波羅蜜多經六百巻」があります。法師が長い年月を費やして翻訳されたこの經典は、中国を初め日本でも古くから除災招福の功德があるとされています。

佐伯藩主・毛利伊勢守から賜った現在地に正定寺が再建された、元禄八年（一六九五）に第五世活門和尚が新春一月十六日に法要したのが始まりとされています。

現在は、一月二十日の大寒に行われ、三百年の間、厄除け法要として続いています。

お札は、六十億四千万字にのぼる「大般若波羅蜜多經六百巻」の祈禱札です。玄関など人の出入りする場所にお祀り（張る）して、お札が家内を見渡し、お札の下を行き来して、大魔を払うように致します。

※古くなった（一年経った）お札は、送って下されば供養致します。





お接待



裏方で支える花園会女性部の面々



くじ引きで当たりました



もち投げ



平成22年度 花園会世話人総会と献茶会



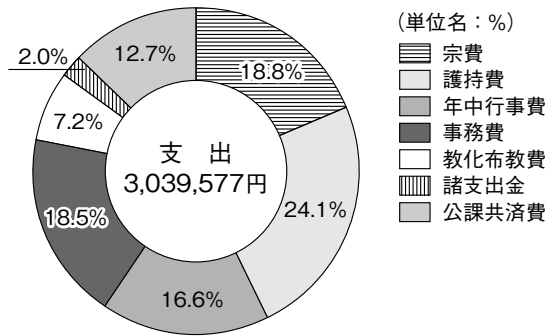
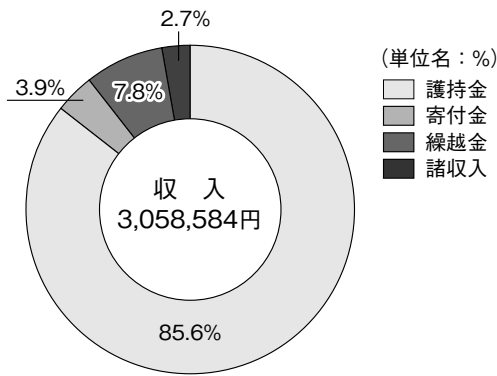
プロジェクトで説明

平成22年6月20日午後7時30分より23地区の世話人さまをはじめ花園会役員合わせて総勢29名が会して「平成22年度花園会世話人総会」が開かれました。

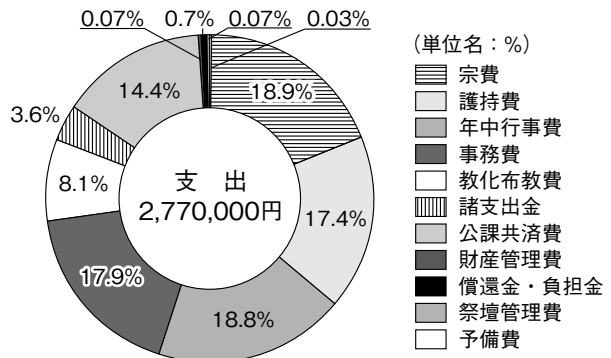
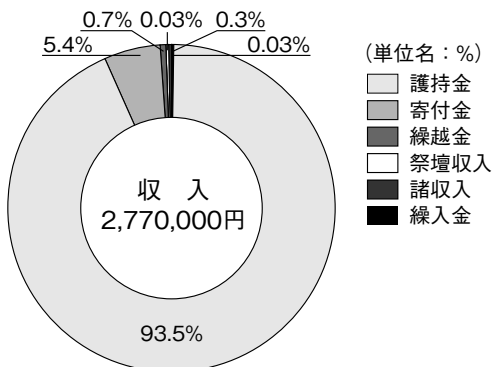
平成21年度事業報告及び花園会会計収支決算・平成21年度花園会事業計画及び花園会会計予算が報告され「平成24年11月」の予定である晋山式の概算予算なども説明されました。

書院には開山和尚の伝法衣（初代和尚の袈裟）や先代から江戸時代における衣や袈裟・数珠・払子などを展示して今回の晋山式にそろえる法衣の説明を行いました。

平成21年度 花園会会計決算



平成22年度 花園会会計予算





総会に先立ち位牌堂に奉納された新茶を献じて法要を行います



説明を聞く花園会地区世話人



新茶に湯を注ぎお参りします



正定寺春彼岸法要とお説教並びに寶林稲荷初午法要



平成22年3月27日（土）の午後1時から位牌堂で春彼岸法要と寶林稲荷初午法要を行い、午後1時30分より本堂で静岡県浜松市龍梅寺住職の木村文達和尚さまより『調える』と題してお説教を頂きました。

本堂には60名の参拝者が法要とお説教に耳を傾けていました。

久しぶりに朝霜が降りて『九州も寒いですね！』と布教師もびっくりにした様子でした。

参拝者のみなさま



お説教に聞き入る檀信徒



本山巡教で浜松市の木村文達和尚さん

平成22年度 花園会女性部総会並びに献茶会



女性部部長の挨拶

平成22年6月21日午後2時から位牌堂で献茶会を2時30分から書院で女性部総会が行われました。
女性部32名が出席して、位牌堂ではご先祖さまへ新茶の奉納が行われ総会では平成21年度の事業・会計の報告と平成22年度の事業計画と予算が報告されました。
晋山式の説明も行われプロジェクトで晋山式のDVDを鑑賞しながら今後の女性部の活動が話し合われました。



資料を見ながら総会が進む



衣桁には江戸時代の袷が掛かっている



総会と展示された衣や数珠



事務局・会計の報告

平成21年度花園会女性部事業報告

月 日	事 業 内 容	備 考
平成21年		
4月8日	花祭り（降誕会）	
4月26日	花園会女性部役員会	6名出席 役員改選について
6月13日	献茶会並びに花園会世話人総会 19:00~	役員出席
6月15日	献茶会並びに女性部総会 13:30~	出席者30名ほど
7月下旬	寺報第50号発行	
8月1日~15日	盆棚経	
9月4日	花園会女性部役員会 19:00~	新旧 役員引き継ぎ
9月21日	山門大施餓鬼法要準備 13:00~17:00	13名出席
9月22日	山門大施餓鬼法要（主催・女性部 対象・檀信徒）	供養数635霊
9月26日	女性部会員 戸高好子さんご逝去	
10月7日~10日	開山650年遠諱参拝	本山（41名参拝）
11月4日	九州 東教区 花園地方大会	亀の井ホテル（役員参加）
11月15日	花園会女性部役員会 12:30~	忘年会について
11月27日	花園会女性部役員会 10:00~	忘年会の景品
12月2日	花園会女性部役員会 19:00~	ロワーズ
12月11日	花園会女性部 忘年会 11:00~	福寿の郷
12月下旬	寺報第51号発行	
12月31日	除夜	
平成22年		
1月17日	大般若会準備 9:00~17:00	6名参加
1月19日	大般若会準備	3名参加
1月20日	大般若会及び檀信徒総会	30名参加
1月22日	大般若会 反省会	4名参加
2月20日~21日	妙心寺展	九州国立博物館（157名参加）
3月13日	第3回黄龍窟杯グラウンドゴルフ大会（延期大会）	17名参加
3月27日	春彼岸法要 第7回正定寺杯グラウンドゴルフ大会	直川苑グラウンド（37名参加）

定例檀信徒総会

毎年、大般若会の後
に「檀信徒総会」が行
われます。

今年度の「総会議事」
はありませんが本山か
ら米寿・百歳のお祝い
や新成人のお祝いが届
きましたので披露して
ご家族へ祝辞・記念品
をお渡しいたしました。

このように檀信徒総
会で米寿・新成人のみ
なさまへお祝いの披露
ができるようになって
十年ほど経ちます。

総代の小野永生さん
からみなさまへお祝い
の言葉と檀信徒への挨拶
があり檀信徒総会を
終えました。

百歳・米寿の みなさまへ

百歳・米寿おめでと
うございます。

正定寺檀信徒の中で、
本年米寿を迎えられた
皆様へ京都ご本山妙心
寺管長さまよりお祝ひ
が届きました。

正月二十日に行われ
ました正定寺大般若会
において、仏前で300名
の参拝者にご披露して
お祝い致しました。

機会がありましたら
是非、お子さん・お孫
さん共々ご一緒にご先
祖さまのお位牌が祀
りされている位牌堂や
本堂ご本尊さまへお参
りください。



百歳のお祝いを母に代わって



米寿のお祝いの地区檀信徒に代わって
世話人さんが

平成22年檀信徒総会でのお祝いのみなさん

	地区	花園会員	該当者	読み	適用	生年月日
1	尾 浦	鳴海勇さんの母	鳴海 ヤク	ヤ ク	百 歳	明治43年
	地区	花園会員	該当者	読み	適用	生年月日
1	上の地	岩佐利通さんの母	岩佐タズエ	タズエ	米 寿	大正10年
2	尾 浦	鳴海健二さんの母	鳴海 豊子	トヨコ	米 寿	大正11年
3	大 鶴	久保田嘉博さんの父	久保田 弘	ヒロム	米 寿	大正11年
4	上の地	古矢長生さんの母	古矢タエ子	タエコ	米 寿	大正11年
	地区	花園会員	該当者	読み	適用	生年月日
1	久留須	安藤定枝さんの孫	安藤 恵理	エ リ	新成人	平成元年生まれ
2	弥 生	岩崎洋子さんの長女	岩崎 良恵	ヨシエ	新成人	平成元年生まれ
3	柚の原	岡田喜敏さんの孫	岡田 大喜	タイキ	新成人	平成元年生まれ
4	大 鶴	大竹琴美さんの孫	大竹 杏季	ア キ	新成人	平成2年生まれ
5	上の地	小野道夫さんの姪	小野 由貴	ユ キ	新成人	平成元年生まれ
6	尾 浦	富高和夫さんの次女	富高 千尋	チヒロ	新成人	平成2年生まれ
7	大分市	長田文明さんの長男	長田 貴史	タカフミ	新成人	平成元年生まれ
8	尾 浦	鳴海トキ子さんの孫	鳴海 比呂	ヒ ロ	新成人	平成元年生まれ
9	尾 浦	鳴海吉三郎さんの孫	鳴海 比晃	ヨシアキ	新成人	平成元年生まれ
10	立 箱	広瀬謙治さんの次女	広瀬真性子	マイコ	新成人	平成2年生まれ
11	立 箱	広瀬広美さんの長女	広瀬 里奈	リ ナ	新成人	平成元年生まれ
12	栂 杭	御手洗哲さんの次男	御手洗将太	ショウタ	新成人	平成元年生まれ
13	江河内	吉内達也さんの次男	吉内 敦	アツシ	新成人	平成元年生まれ
14	弥 生	吉田新一さんの長女	吉田 知恵	チ エ	新成人	平成元年生まれ

京都妙心寺展 禪の至宝と九州・琉球

2月20日（土）・21日（日）の両日に90名の参加

で九州国立博物館の「妙心寺展」で出かけました。期間中では169名（大人157・子供12）の正定寺檀信徒が妙心寺展を堪能しました。

この展覧会は、妙心寺創建以来、脈々と今に伝えられた関山禪の真髓（しんずい）と、九州・沖縄の地で花開いた多彩な禪文化の粹を示す国宝4件、重要文化財35件、その他初公開の文化財も半数以上と無相大師ゆかりの寺宝をはじめ、妙心寺の禪文化を彩る名宝の数々が出陳されます。

また九州・沖縄の妙心寺派寺院から出陳される文化財は、この展覧会を機に新たに実施した調査による成果であり、その

ほとんどが初公開となります。

妙心寺は、建武4年（1337）に花園法皇が自らの離宮を改めて禅寺としたことに始まります。

禅を深く信仰していた法皇が開山に迎えた関山慧玄禪師（無相大師）は大燈国師から嗣法した後、美濃伊深の山里で修行した名僧です。

平成21年は、その無相大師が亡くなられて六百年を迎えます。

妙心寺では50年に一度厳修される遠諱（おんき）大法会を勤め、無相大師の遺誡（ゆいかい）である「請う其の本を努めよ」のお言葉と、花園法皇のお言葉である「報恩謝徳」を掲げ、広く勝縁を結びせていただいております。

今般の九州国立博物館

での妙心寺展も遠諱記念事業の一つです。

妙心寺の宝物「関山」道号、「黄鐘調鐘（おんじきちょうしょう）」や龍虎図・花卉（かき）図などの屏風、また、九州琉球地域の妙心寺派の御寺院様から数多くの御宝物を出陳させていただきました。

無相大師の教えを受け継いだ祖師がたの頂相（ちんそう）や、その祖師方に帰依した皇室、公家、諸大名との関係をも偲ぶことができます。また、白隠禪師や仙槌禪師のような庶民に親しまれた高僧の墨蹟・禅画をとおり、禅の心や禅の真髓を感じていただきたいと思います。

定例檀信徒總會

新成人のみなさまへ

成人おめでとうございませう。皆さまの菩提寺として心からお祝い申し上げます。

京都の花園にありますご本山妙心寺より新成人の皆さまへお祝いが届きました。

元禄八年（1695）正月二十日から行われています正定寺大般若会において、ご参拝のご家族にお渡しいたしましたのでお受け取りください。

皆さまのご先祖さまは五百年前から正定寺を菩提寺として歴史と誇りを伝えて来ましたが、

機会がありましたら是非、ご家族とご一緒にご先祖さまのお位牌が祀りされている位牌堂や本堂ご本尊さまへお参りください。

平成二十二年

正月二十日

正定寺住職 小原壽山

※正定寺のホームページ <http://syojic.com/> 検索サイト《正定寺》で見ることが出来ます。このホームページは1995年に大分県の臨濟宗（禪宗）で最初に開設したホームページです。



新成人のお祝いを孫に代わって

妙心寺展の感想

柳井 亜耶香さん(十七才・椹ヶ原)

2月21日、私たち家族は福岡県の九州国立博物館で開催されている『妙心寺展』に行きました。

もともと、私たち家族は「妙心寺展に行ってみようや！」と話していたので丁度いいタイミングでの参加となりました。

当日は大型バスで大宰府まで行きましたが、天気がよく、太宰府天満宮の梅の花がきれいに咲いている日曜日ということもあってか、車も人もとても多かったです。

太宰府に到着し、昼食をとってしばらくしてから九州国立博物館へ行きました。

私たち家族は三手に分かれて展示物を見て回りました。

私は父と展示物を見たのですが、展示物の説明書きを見てみると……

大分県のものが多いと

いうことに気付き、とても驚きました。

中にはテレビで見たことのあるものや、私が知っている歴史上の人物の私物を展示してあったりと、感動と驚きでいっぱいでした。

国宝の兄弟鐘、龍虎図屏風、豊臣鶴松所有の菊桐文馬具、徳川家綱の位牌、達磨像、釈迦三尊像、金剛力士立像など多くの展示物がありました。ひとつひとつがとても印象に残っています。

その中の龍虎図屏風は左隻に虎、右隻に龍が描かれていたのですがまるで虎は龍に、龍は虎に敵対心があるかのように睨み合っている様でした。

特に龍は、雲の中から体全体を出さずに体の一部を出していたので、龍の大きさや力を感じさせられ圧倒されました。

また、展示場には妙心寺法堂の雲龍図が映し出されていました。

本物を見ているわけではないのに、何とも言えない空気に魅了されました。

この『妙心寺展』に行つて、沢山の素晴らしいものに出会うことができました。

これから先、ここで見たものすべてをまた見ることはできないと思つています。

ここで見た展示物、そのひとつひとつを忘れないうようにしたいと感じました。

もし、またどこかで機会があればここで見た展示物の1つでもいいので再会できるといいなと思います。

私はこの『妙心寺展』に行くことができ、多くの文化財に出会うことができ、本当によかったです。と思いました。



◀2月20日の参加者



2月21日の参加者▶



妙心寺展

柳井直人さん(十三才・市屋敷)

二月二十一日、ついに妙心寺展に行く日がやってきました。

わくわくしながらおばあちゃんとアトレにまつているバスに乗り出発しました。

前から少し気になっていたので、これはいいと行くようにした事をバスの中で思い出しながらそして、妙心寺の国宝や重要文化財のならばの思いうかべながら、どんどん進んで行きました。

そんなことを考えているとバスのスピードがだんだん落ちて、ほとんど動かなくなってきました。ゆっくりと動いていると「昼食の時間があと残り少ないので、ついならすぐ昼食を食べてください。」とバスガイドさんの案内どおり、着くとすぐ食べあげました。

おかずは、博多だけに

しかない物も入っていたし、他のおかずもおいしくてとてもおなかがよく

うぐらいになりました。だけど、続きまして、といわんばかりのテンポで妙心寺の見学です。

妙心寺展では、いよいよ見学が始まると、早く入りたいという気持ちで体がうずうずしてしま

た。入り口で入場券と500円をはらいイヤホンをつけてもらい、中にすぐ行きました。

中に入ると銅鐘や5体の像などがあり、「昔の人がこんなりっぱなものをよくつくったなあ」と言

いながら、とてもおどろきますます体がうずうずしてきました。

中に入って行くと、トラと竜の見合っているものが

あり、ものすごい迫

力におどろきました。その上には、とても大きな竜が円をえがきながら回っている絵がありま

た。そのあたりをぐるぐると回ると竜の目の方向もかわるのを見て、「なぜこんなふうに見えるのかなあ、おかしいなあ」とおどろきました。

その後進んで行くとやと外に出ることができました。さらに下においてお土産を買いました。そして楽しかった時間はもう終わりがきてしまいました。

バスに乗り直川のアトレをめざして出発しました。

妙心寺展はすばらしいなあと思いつつながら、バスの中で一日のことを思い出していました。

今日は、妙心寺のてん示された国宝など、貴重な物を見てよかったです。思いました。

少しだけお寺の事などいろいろ知らなかった

こともわかってとてもよかったです。



▲2月20日の参加者

▶2月21日の参加者



京都妙心寺展
禅の至宝と九州・琉球バスツアー参加者

2月20日(土)	
小野 恒存	内 水
小野 洋子	内 水
小野 裕奈	内 水
小野 愛奈	内 水
戸高 浅生	内 水
戸高 夕カヨ	内 水
小野 邦彦	内 水
小野 宣子	内 水
戸高 茂子	椀ヶ原
御手洗好子	椀ヶ原
小野 浩伸	細川内
小野 静子	細川内
小野 美智治	上の地
大竹 夢美	大 鶴
戸高 小恵子	大 鶴
大久保保美	大 鶴
柳井 みはる	久留須
安藤 廣美	久留須
安藤 佳代	久留須
大司 八郎	久留須
小野 哲生	久留須
小野 シマ子	久留須
安藤 哲也	久留須
安藤 弘子	久留須
飛田 富江	久留須
飛田 百合	久留須
飛田 勝平	久留須
曾宮 佐津子	久留須
平井 カズエ	神 内
小野 昌子	神 内
川下 佐和代	神 内
柳井 幾子	立 長
安藤 慶喜	中 道
芦刈 美代	月 形
星野 真澄	向 舟
加藤 ふみ	向 船
吉田 春道	向 庭
吉田 今朝子	向 庭
河野 豊美	江 河
佐藤 スヱカ	鶴 岡
軸丸 貞子	向 島
小原 みどり	正 定

2月21日(日)	
山元 都	内 水
飛田 礼子	杭の内
柳井 正道	椀ヶ原
柳井 香代子	椀ヶ原
柳井 浩美	椀ヶ原
柳井 亜耶香	椀ヶ原
柳井 智帆里	椀ヶ原
柳井 愛未里	椀ヶ原
橋迫 香代子	柚の原
御手洗ヨネ子	細川内
小野 保子	細川内
久保田 操	大 鶴
久保田和久	大 鶴
三浦 伸一	大 鶴
鴨尾 イイ子	神の原
柳井 登志子	市屋敷
柳井 政子	市屋敷
柳井 久美子	市屋敷
柳井 直人	市屋敷
安藤 智公	市屋敷
安藤 カツ代	市屋敷
川野 久美子	堂 師
広瀬 登代子	堂 師
御手洗 郁子	堂 師
広瀬 幸子	堂 師
川野 照子	堂 師
矢野 薫	久留須
矢野 侃可	久留須
五十川 キミエ	井 取
星野 延子	向 船
星野 千賀子	向 船
岩切 初	向 船
稻吉 キミエ	向 船
吉田 禮子	園 園
大畑 利春	園 園
大畑 記美代	園 園
大畑 とく子	園 園
甲斐 浩光	江 河
甲斐 俊子	江 河
甲斐 龍太	江 河
甲斐 久仁子	江 河
飛河 浩美	向 船
河村 典邦	上 口
木許 ミチ	向 船
小原 南陽	正 定

檀信徒のみなさまへ

《晋山式について》

平成22年6月20日の世話人総会で資料を配付して「過去の晋山式」・「今回の晋山式」・「予算概要」などをご説明いたしました。

今後は地区世話人さまを中心に檀信徒さまへは多大なご寄進のお願いなど物心両面にわたってご協力を賜る事になります。

前回の晋山式を参考に概算予算（1戸あたり十万円）が示されましたが、今後精査して少しでも檀信徒の負担軽減が為されればと考えています。

秋のお彼岸が過ぎた頃に「臨時世話人総会」を予定しています。

その時に確定した1戸あたりの負担金（晋山寄付金）をお知らせできると思っています。

地区によっては既に十
万円を目標に月々の積み
立てが始まった地区もあ
ります。これは地区檀信
徒の負担軽減を考えて早
い時期から積み立てを行
う事が話合われた地区で
す。

【晋山式】

晋山式とは字のごとく
「山に晋（スス）む」事で
新たな住職を迎える儀式
です。

《第二十一世千巖義光和尚
の晋山式》

大正6年（1917）
《大正6年当時の主な役
員》

林 宇三郎 小田木治佑
櫻井 孝吉 小野 庫佑
矢野惣五郎 武田 源蔵
古元 万平 小野 宇八

《正定寺第二十二世豊嶽義
弘和尚の晋山式》

昭和29年（1954）
《昭和26年当時の主な役
員》

後藤 太蔵 矢野 文作
林 嘉二郎 小田木 治
簗戸 菊蔵 小野 広太

《正定寺第二十三世寿山士
朗和尚の晋山式》

昭和57年（1982）
《当時の役員》

甲斐 健平 甲斐 千秋
竹尾 育人 矢野 照雄
安藤 智公 久保田正徳
吉田 直幸 安藤 大典
志賀 正行 川野 貴重
安藤 鉄也 立箱 和人
鴨尾 利夫 山下 亀
竹下 正 泥谷 新一
廣瀬 松行 羽明 登
島田 清 鳴海幸太郎
曾根田 光 御手洗晴規
小野 秀喜 飛田 幸生
甲斐 照光 高原 正年
柳井 孝義

《正定寺第二十四世南陽拓
朗和尚の晋山式》

平成24年（2012）
11月を予定しています。

【檀信徒やその 「親戚へのお願い」】

《稚児の募集》

平成24年の晋山式には
稚児行列30名以上を予定
しています。少子化で充
分な稚児の確保ができる
心配です。

檀信徒はもちろんです
がご親戚・友人遠地の
孫・ひ孫さんにも呼びか
けて募集したいと考えて
います。

年齢は3歳〜小学校
1・2年生の学童。

《羽織・袴を貸してくださ い》

晋山式は古式により行
われますので、役員（総
代・世話人）は羽織袴と
なります。

檀家のみなさまで羽織
り袴をお持ちの方はお貸
しください。

羽織り袴をお持ちの方
は地区世話人さまへお知
らせください。



▲上の地での
22世晋山行列



正定寺第22世 豊嶽義弘和尚の晋山式
(昭和29年)



23世役員・稚児写真



23世晋山行列

垂示式を終えて

副住職に

徒弟南陽禅士は平成22年3月12日妙心寺開山堂で無事垂示式を終えました。

禅士は京都相国寺へ平成20年10月5日掛搭（参堂）翌年の秋入制大撮心後に正定寺へ戻り法要など荷担する傍ら今年2月16日に前堂職法階取得研修を済ませ3月10日正定寺副住職となっております。

垂示式には師匠・総代・法類など随行して、妙心寺宿坊である大心院・本坊である龍泉庵へご挨拶するべきですが、「師親の大事」でもあり一人で垂示式におもむき妙心寺開山堂で垂示式を終えました。

先の妙心寺六百五十年遠忌報恩攝心で龍潜洞老大師の室に接したこともあり今

年4月5日掛搭しました。

今年のお盆は養賢寺のご配慮で制間中は自坊へ戻りお参りができると思っています。

【垂示式とは】

垂示（すいじ）とは、教えを説くこと。

垂示式とは、新しく住職や副住職になるときに、多くの人々（大衆・だいしゅう）に向かって説法を行う儀式です。

開山堂に掲げた垂示の額です。この日は一人だけの垂示式だったようです。



第3回黄龍窟杯 グランドゴルフ大会

3月11日に米水津グラ
ンドで「第3回黄龍窟杯
グランドゴルフ大会」が
九州東教区第2部主催で
31チーム150名を超える参
加で行われました。

正定寺から3チーム
(15名と応援団長1名)が
参加しました。

黄龍窟とは平成20年3
月7日に亡くなられた養
賢寺新命老師の室号（呼



参加者集合スナップ

び名)です。

養賢寺の住職になった
年からお祝いにと「黄龍
窟杯」が行われるように
なりました。

今回は老師を忍ぶ大会
となりました。

天気も良く参加者も多
く、浄土の老師も喜んで
いただけたのではないかと
支所長も挨拶していま
した。

団体成績は振るいませ
んでしたが個人で鴨尾利
夫さんが39打で6位入賞
しました。



6位入賞の鴨尾利夫さん



▲▶チーム正定寺



★参加者

- | | |
|-----|-------|
| 山田 | 佐一さん |
| 鴨尾 | 利夫さん |
| 安藤 | 慶喜さん |
| 三浦 | 伸一さん |
| 古元 | 聖人さん |
| 大司 | 八郎さん |
| 小野 | 浩伸さん |
| 矢野 | 侃可さん |
| 小田 | 木布子さん |
| 矢野 | 薫さん |
| 山田 | 牧江さん |
| 久保田 | キヨエさん |
| 大畑 | 記美代さん |
| 吉田 | 禮子さん |
| 岡田 | 喜敏さん |
| 甲斐 | 久仁子さん |

《正定寺花園会役員名簿》

- | | |
|----------------------|-------|
| 花園会会長(檀徒総代) | 甲斐 照光 |
| 花園会役員(檀徒総代) | 小野 永生 |
| 花園会役員(檀徒総代) | 御手洗晴視 |
| 花園会役員(檀徒総代) | 安藤 廣美 |
| 花園会会計・事務局 | 村西 栄二 |
| 花園会女性部部長(第二部女性部副部長) | 甲斐久仁子 |
| 花園会女性部副部長 | 安藤リヨ子 |
| 花園会女性部副部長 | 川野久美子 |
| 花園会女性部副部長 | 柳井久美子 |
| 花園会青壮年部長(第二部青壮年部副部長) | 小田木聖孝 |
| 花園会青壮年副部長 | 安藤 博光 |
| 花園会青壮年副部長 | 戸高 直人 |

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- | | | | |
|--------------|-------|----------|-------|
| 内水地区 | 戸高 浅生 | 堂師地区 | 羽明 忠義 |
| 柗杭地区 | 飛田 照子 | 野の内地区 | 川野 貴重 |
| 岸の上地区 | 羽明 忠夫 | 立長地区 | 立箱 和人 |
| 上の地区 | 植田 純市 | 中道地区 | 安藤 慶喜 |
| 細川内地区 | 小野 浩伸 | 吹原地区 | 山内 一平 |
| 柚の原地区 | 染矢 博正 | 久留・新中地区 | 簀戸 功吉 |
| 黒岩地区 | 小野 力 | 竹園地区 | 竹中 裕子 |
| 大鶴地区 | 三浦 伸一 | 間庭・中津留地区 | 簀戸 精一 |
| 神の原地区 | 尾形 利勝 | 江河内・道越地区 | 甲斐 龍太 |
| 神栗地区 | 森下 修 | 尾浦地区 | 山本 春男 |
| 市屋敷地区 | 柳井 百人 | 旧佐伯地区 | 仲宮 哲男 |
| 花園会会計監査委員 | 竹中 裕子 | | |
| 花園会会計監査委員 | 植田 純市 | | |
| 花園会女性部会計監査委員 | 小野 宣子 | | |
| 花園会女性部会計監査委員 | 柳井 政子 | | |

※花園会地区世話人はその年度末（3月31日）までお世話を頂きます。